

第 86 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：平成 30 年 10 月 29 日（月） 14：00～16：00

場所：奈良商工会議所 地下 1 階 AB 会議室

出席者：

【委員】 伊東委員、岡崎委員、川池委員、久保田委員、庄田委員、
立川委員（委員長）、館野委員、藤次委員、堀野委員

【事務局】 奈良県県土マネジメント部 河川課

- 議事
1. 第 85 回奈良県河川整備委員会の議事概要について
 2. 進捗点検（大和川平城圏域）について
 3. 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

質疑応答：

1. 第 85 回奈良県河川整備委員会の議事概要について

久保田委員 館野委員	誤字について指摘。
事務局	修正対応する。

2. 進捗点検（大和川平城圏域）について

【治水】

●秋篠川

立川委員長	西ノ京工区は、薬師寺があり非常に奈良らしい場所で大事にすべきところであるが、そこに木がない。また、堰が非常に高くして周りの景観とどのようにマッチさせていくかが課題であり、このあたりを工夫する可能性はあるか。
事務局	薬師寺が正面にありながら護岸への配慮が足りなかったと考えている。整備済みの箇所は、今後色が変わっていくことを期待するしかないと考えているが、これから整備するところは、周囲に少しでも溶け込むような素材を使った形で整備を進めていきたい。 また、歩いて絵になる箇所であり、今後も河川利用が見込めることから、可能な範囲で水辺整備を進めていければと考えている。

●秋篠川（つづき）

舘野委員	今後色が変わっていくことを期待すると回答されているが、工事が始まる前に委員が意見を述べるができる場はないか。工事が終わってしまうと、対策が難しいと思う。
事務局	5年前に上流側でご意見があつて、巨石を使用した護岸整備を行ったが、今回は配慮が足りなかった。今後指導していきたい。
伊東委員	5年前の現地視察でも委員から景観について多くの意見があつたが、その割に変わっていない。できるところから始めていただければよいと思うが。
事務局	何か取り組めることがないかきちんと考えて取り組んでいきたい。
伊東委員	この委員会には、様々な知識を持った先生方が参加されており、何かあるときは一度、意見を伺うようにしていただければありがたい。
久保田委員	その中で、頂いた意見を積極的に取り入れて反映させるというのは必要だと思う。
久保田委員	歴史的風土特別保存地区では、建築物の新築等に厳しい規制があるが、保存地区内の河川の工事にも規制があるのか。
事務局	堤防から下については、規制の対象にはならないが、景観に配慮することは必要であると考えている。
岡崎委員	ピンポイントでも良いので、最初の一步を実施することが必要である。せめて次の5年間までにどこか1箇所緑を創生するなどの取り組みをしてみても、それが地元と含めてうまくいくようであれば、少しずつでも継続していくよう配慮してもらいたい。
事務局	そういった取り組みを進めている圏域もあることから、平城圏域でも同じように実施していければと考えている。

●菰川

立川委員長	人工的で単調にならないような河川景観を創出するために水量の増加等を検討していくとあるが、幾つか堰を統合することで、少しでも河川水量が戻ってくるのか。
事務局	堰の統合によるというよりも、自己流域だけでは水量が増やせないため、地下水や農業用水など余っている水を活用して、河川水量を増やしていきたいと考えている。

●蟹川

堀野委員	上流側の流下能力が計画流量 20 m ³ /s の区間で 1 m ³ /s 程度で、余裕高を見ても 3~4 m ³ /s であり、流下能力が著しく低いが、例えば今年7月の大雨のときとか溢れているのか。
事務局	ここで溢れたという実績はないが、この区間より上流の市の管理区間でも同様に低い流下能力となっており、原因は定かではないが、道路の冠水があったと聞いている。 また、西日本豪雨時は、この地域では幸い岡山等で降ったような大雨にはならなかったが、同様な雨が降った際には、大きな被害が発生したと考えている。

●能登川

藤次委員	過去から、恵比寿橋の迂回路の地元調整が整わないという理由で事業が進んでいないように思う。 他県ではあるが、氾濫の危険性があるにもかかわらず河川整備計画が立てられておらず、今年豪雨で被害が出て訴えられたという新聞報道があった。河川整備計画の有無の違いがあるが、地元調整ができておらず整備が進んでいない中で、浸水被害が発生した時に、県が責任追及されるおそれがあると考えられる。県としては、整備への住民の協力を得るよう努力すると共に、その記録をきちんと残しておくことも必要である。
事務局	竜田川の小瀬では、なかなか交渉が進まない中で事業認定等も視野に入れて進めているという事例もある。能登川でも地元との調整を進めて、最終的にはそういう手段も活用できるように、きちんと順序立ててやっていく必要があると考えている。

●流域対策

立川委員長	水田貯留が、大和郡山市で進んでいる理由は何かあるのか。
事務局	ため池の整備が難しい中、少しでも取り組める方法として、モデル的に取り組まれている。

●全般

伊東委員	5年前の進捗点検では、県内でこの圏域の治水がもっとも活気があると思っていたが、5年前と比べると進捗率があまり変わっていない。ネック地点の対応で事業が進まなかったと理解してよいか。
事務局	堰の改築や統合で、地元との調整に時間を要していた。 地元との交渉や調整が終わったことから、今後事業が進んでいくと考えている。

●全般（つづき）

立川委員長	歴史や景観に対する配慮という意見がたくさん出ている。進捗点検時の意見記載欄に、平成30年度も書き加えていただき、整備や次の進捗点検に活かすようになればと思う。
庄田委員	平面的に面積が大きい池や遊水地を整備するにあたっては、町との接点となる施設の端の部分にフェンスなどを、もう少し地域になじむように配慮してほしい。

【防災】

堀野委員	新規に設置したライブカメラの位置が示されているが、設置場所をどのような基準で決めているのか。未整備であって、大きな雨が降ると溢れるような危険な箇所にはカメラを設置した方がよいのではないかと考えている。
事務局	基本的に水位周知河川の中で、関係市町村の意見を聞きながら、河川の状況を確認したい箇所にはカメラを設置している。 委員より意見頂いた緊急度の高い箇所については、市町村の意向を聞きながら、危機管理型のカメラを整備していきたいと考えている。
堀野委員	地元が希望する箇所が必ずしも危険な場所とは限らないことから、河川の危険性に関する情報を周知することも必要である。
立川委員長	ホットラインの構築、ハザードマップの作成について、目標、達成状況を示してはどうか。
事務局	そういうものを数値で、今後記載することを考えている。 なお、既に前の降雨規模でのハザードマップは、全ての市町村で作成済である。ただ、水防法の改正に伴い、想定最大規模降雨に対するハザードマップも作成する必要がある。現在、県において想定最大規模降雨での浸水想定区域図を作成中であり、来年度から市町村がハザードマップの作成に取りかかって頂けると考えている。
川池委員	アラームメールの登録者数が増えたからよかったということではなく、それが実際に地域の方の避難行動に結び付いているかが重要である。アラームメールがあることによる、問題点を整理して示してはどうか。
事務局	情報発信について、例えば本当にいざというときに、切迫感のあるような内容を発信するのか、単純にこの水位に達しましたでいいのか、そういうところが課題であると考えている。国が、単に情報を流すのではなく、伝わる情報を流すということを検証されていると聞いている。国の検証結果を見ながら、県で可能な限り反映していく必要があると考えている。

【防災】(つづき)

久保田委員	出前授業などで、この川は、どのような面で人々に役立ってきたか、あるいは逆にどういう悲惨な過去の被害があったのかを子供に示して、現在どのように対応しているかを理解してもらうことが大事であると思う。これによって、過去の災害も活かされていくのではないか。 川の歴史を活かす教育を行うことで、河川が身近なものになるのでは。
立川委員長	川の学校は水環境、水質に加えて、防災ハザードマップの見方や河川の伝承などをテーマに加えて子供たちに伝えてはどうか。
事務局	防災について、少しでも盛り込みながら興味を持ってもらえたらと考えている。
立川委員長	奈良県は観光客が多いが、防災情報を英語などの他の言語でも提供できればより効果的であるが、英語などでの情報提供は考えているか。
事務局	現状の河川情報システムでは、英語などでの情報提供は難しいが、来年度以降にシステムを改良していく予定であり、その中で考えていきたい。

【環境】

立川委員長	水質は確実に良くなっているが、この理由は下水道の普及および接続率の向上が結び付いていると考えればよいか。
事務局	その通りである。

【その他】

舘野委員	蟹川上流の東西の道路は、平城京の九条大路にあたり、ここから北が平城京であるという一番端に相当する歴史的な場所である。かつての奈良の都の南側の端であったことが確認できるようにヤナギ並木などを設けてはどうか。
立川委員長	人が歩くようなところに、平城京の一番端に相当することを示す看板を設置してはどうか。
岡崎委員	お金をかけなくて良いので、歴史的な場所であることが分かるようにしてほしい。史跡は、そういう形で残すことで、後に観光化することもある。
事務局	現状は多くの人に来られる場所ではないが、歴史的な場所であり、何かお金のかからない工夫ができればと思う。

【全体】

立川委員長	出された多くの意見について、「進捗点検時の意見」の平成 30 年度にまとめていただき、抜けがないか確認した上で、次の 5 年に結び付けられるように、とりまとめをお願いしたい。
事務局	年度末の取りまとめにあたっては、「対応方針」に可能な限り具体的に記載するなど、例えば現在の県の担当が変更した場合においても、後任者が理解できるように対応したい。

3. 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

岡崎委員	現在は注目すべき種の抽出は、物理的に行われていると思う。今後、注目すべき種の抽出やとりまとめにあたっては、周辺の人が植えたり、庭から逃げたり飛んできて生育した種の取り扱いに配慮して行ってほしい。
久保田委員	カワナなどの貝類が調査でほとんど確認されていない。経験上、カワナやモノアラガイだけでなく、例えば非常に汚れた水のところに生息するサカマキガイ、あるいはタニシも確認できる可能性があると考えている。そのあたりの種にも目を向けて調査を行ってほしい。ホタルにつながっていくことから、地元の方は、関心が高いと思う。

以上